

## 1. 令和3年度 宮城県農業行政の概要

# 共創力強化

～多様な人材が豊かな未来をつくる みやぎの食と農～

### ○現状と課題

東日本大震災からの創造的な復興の取組により、100haを超える大規模土地利用型農業法人や、高度な環境制御技術を導入した先進的施設園芸に取り組む法人が増加しています。

一方、人口減少や高齢化に伴い、国内の食の市場規模が縮小し、農家数の減少も加速しており、国内外での市場開拓、生産現場での労働力不足への対応が課題となっています。また、集落機能の低下、野生鳥獣被害の深刻化、さらには、大規模化・頻発化する自然災害や新型コロナウイルス感染症の感染拡大などへの対応も課題となっています。

### ○令和3年度の基本的な方向性

実需者ニーズに対応するための産地生産体制の整備や食品製造業との連携強化による「食のバリューチェーンの構築」、先進的施設園芸や大規模露地園芸の振興による「園芸の拡大」、労働力不足などに対応したアグリテックの導入や鳥獣被害防止対策へのICTの活用など「デジタル化の推進」、関係人口との連携による「農村のなりわい創出」、洪水被害を緩和する田んぼダム等の導入等による「自然災害への対応」をはじめとした各種施策を展開します。また、引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応や令和元年台風被害等からの復旧・復興に取り組めます。

これらの取組を農業者だけでなく、消費者も含め食と農に関わる人材が結びつき、活躍することにより、豊かな食と農の未来を築けるよう施策を展開します。

### ○重点施策

#### I 時代のニーズに対応した県産食品の安定供給（豊かな食）

- 県民による豊かなみやぎの食と農への理解と地産地消の促進
- 生活様式の変化に対応する県産食品の販売力強化
- 県民への安全・安心な食料の安定供給

#### II 次代の人材育成と革新技术の活用による戦略的な農業の展開（儲ける農業）

- みやぎの農業を支える多様な人材の確保・育成
- 先進技術等を活用した農業生産の効率化と高度化
- 基盤整備と集積・集約化による農地利用の高度化
- 先進的大規模拠点を核とした園芸産地の確立
- 水田フル活用による需要に応じた作物生産の振興
- 生産基盤の拡大による畜産の競争力強化

#### III ひと・もの・ちえを総動員した持続可能な農村の構築（活力ある農村）

- 関係人口と共に創る活力ある農村
- 地域資源を活用した多様ななりわいの創出
- 環境と調和した持続可能な農業・農村づくり
- 農業・農村の強靱化による地域防災力の強化